

第3種郵便物認可

商店街空き店舗に飲食店

帯広に13日開店 居酒屋スタイル

ケアセンター共同運営

帯広市の電信通り商店街振興組合(長谷渉理事長)などが運営する飲食店「総菜・ごはん屋でんしん」が13日、東2南6の空き店舗を改装してオープンする。十勝産の豆を使った料理や酒類を提供する居酒屋スタイルで、地域のお年寄りらが気軽に立ち寄れる地域密着型の飲食店を目指す。(高尾晋)



13日にオープンに向け、準備が進む「総菜・ごはん屋でんしん」

バリアフリー化

同組合が国の補助をの約20席で、茶色を基受けて行う活性化事業調とした「昭和風」の一環で、NPO法人デザイン。黒千石は十勝障害者サポートネット、帯広ケアセンターと共同で運営する。3者が運営する「御用聞き屋べんそう商店」隣の空き店舗(約74平方メートル)をバリアフリーに改装し、トイレやテーブルは車いすのまま利用できる。店内はカウンター、テーブル席、小上がり

障害者施設職員が務めるが、運営が軌道に乗ってくれば、就労訓練の障害者も受け入れる。長谷理事長は「この地域は高齢化が進み、一人暮らしのお年寄りも多い。地域の人々が落ち着ける場にした」と話している。

13日は午後3時開店。14日以降は日曜、月曜が休み。

問い合わせは同店 ☎ 0155・24・0816へ。

(高尾晋)